

教育研究業績概要

氏 名 太田 伸生 ()				
研 究 分 野		所 属 学 会 等 の 名 称		
感染症学、寄生虫学、熱帯医学、免疫学		日本熱帯医学会、日本寄生虫学会、臨床寄生虫学会、生体防御学会、日本渡航医学会など		
担当授業科目名				
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年	概 要	
1 教育の実践例、教育に関する評価等		2017～現在	教科書の他に講義内容を補完するプリントを配布し、毎回講義内容の復習レポートを課すなどして学習内容の理解を促している。	
2 作成した教科書、教材、指導書等 標準医動物学 ナーシンググラフィカ微生物学 標準微生物学 ほか3件		1995 2004～ 2014	共同編集（石井明、太田伸生、鎮西康雄）、医学書院 共著 メディカ出版 pp.113-121 共著 医学書院 pp.541-550	
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等				
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項				
事 項		年	概 要	
1 資格、免許、特許、受賞等 免許 医師免許証 特許 (米国特許) 受賞 朝日奨励賞 小泉賞 桂田賞 宮崎一郎賞 専任教員経験 名古屋市立大学教授 東京医科歯科大学教授 同上 名誉教授		1977 2015 1982 2003 2014 2021 1993～2005 2006～2017 2017	厚生省 新規抗住血吸虫薬 (Anti-Schistosomal Agent, US Patent 8927596) 朝日新聞社 日本寄生虫学会 財団法人 予防医学協会 貝原記念財団 任命権者 名古屋市立大学長 任命権者 東京医科歯科大学長 任命権者 東京医科歯科大学長	
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等 学会役員 政府関連学術組織委員 国際協力事業 科学研究費審査委員 国家試験出題委員等 大学評価委員 法人理事等		2000～ 2001～2007 1989-2017 2002-2016 2007-2013 2012～ 2015 年～	日本寄生虫学会理事・理事長、日本熱帯医学会理事、臨床寄生虫学会理事、生体防御学会理事 ほか 日米医学協力研究会寄生虫疾患専門部会長 パラグアイ共和国シャーガス病対策プロジェクト 派遣専門家 ガーナ共和国野口記念医学研究所感染症研究プロジェクト 国内委員 国際寄生虫対策 西アフリカ寄生虫対策センター事業 担当委員 ガーナ共和国 SATREPS プロジェクト委員 科学研究費補助金 第一次審査委員および第二次審査委員 臨床検査技師国家試験出題委員 医療系大学間共用試験実施評価機構 CBT ブラッシュアップ委員 長崎大学熱帯医学研究所 外部評価委員 大学評価・学位授与機構 学術専門委員 大学改革支援・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会専門委員 公益財団法人 野口英世記念館 理事	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書名、報告書名等		単・共著の別	発行年	発行所等の名称 著者名・ページ数等

(著書) ・今日の治療指針 ・今日の診断指針 ・日本における伝染病との闘い ・医学大辞典（第 21 版） ほか多数	共著 共著 共著 共著	2019 2020 2010 2020	医学書院 医学書院 医学評論社 南山堂	太田伸生 pp. 259 太田伸生 pp. 1359-1396 太田伸生 pp. 159-74 太田伸生 多事項
(報告書等) ・臨床検査技師国家試験解説 ・寄生虫症の薬物治療の手引き ・感染症予防必携（第 3 版） ほか多数	共著 共著 共著	2020 2019 2016	医学書院 日本医療研究開発機構 日本公衆衛生協会	太田伸生 4 問の解説 太田伸生 pp. 34-35 太田伸生 多数項目を執筆
学術論文 学会発表等の題名		発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等
(学術論文) ・HLA-DQ is epistatic to HLA-DR in controlling the immune response to schistosomal worm antigen in humans. ・Insights into the mode of action of 1.2.6.7-tetraoxaspiro{7.11} nonadecane (N-89) against adult Schistosoma mansoni worms. ・Antimalaria activity of Vitamin D3 (VD3) does not from VD3-induced antimicrobial agents including nitric oxide or cathelicidin. ほか 約 200 編			Hirayama K, Ohta, N Sasazuki T et al. Blay E, Kumagai T, Ohta N et al. Yamamoto K, Ohta N, Ato M et al.	Nature, 1987, 327:426-30. Parasitol Int, 2018, 67-403-12. Exp Parasitol, 2019 doi:10.1016/j.expara.2019.03.005
(学会発表等) ・A new synthetic compound: a prospective drug for wide spectrum of NTDs. ・寄生虫感染症と統合医療 ・宿主と寄生蠕虫の相互“依存”関係 ほか、約 400 報			Nobuo Ohta 太田伸生 太田伸生	国際寄生虫学会 (ICOPA 2018)、Key Note Lecture, 2018 年 8 月 23 日、Daegu, Korea. 第 58 回日本比較統合医療学会 特別講演 2016 年 12 月、東京都 第 27 回日本比較免疫学会学術集会シンポジウム 2015 年 8 月、小浜市
(その他) ・寄生虫屋のよもやま話 ・ガーナに残した野口英世の足跡に学ぶ ほか多数			太田伸生 太田伸生	臨床検査 Vol. 60-61 (2016-2017) に連載 野口英世記念会報 第 60 号 pp. 38-41, 2015 年